『千葉大学　ユーラシア言語文化論集』16（2014）：231 － 246

使役役割の指定条件に関する批判と提案

－Li,Yafei(1995)についての再点検

楊　明

キーワード　項構造　動補構造　使役事象　際立ち　意味役割　ヒエラルキー

1. Li,Yafei(1995)の主張

Li,Yafei(1995)は、項構造(A-Structure)を意味役割の次元(Themantic Dimension)とアスペクトの次元(Aspectual Dimension)に二分するという Grimshaw(1990)からヒントを得て、中国語の動補構造には、Causative Hierarchy(以下は CH と略記)と Themantic Hierarchy(以下は TH と略記[1])が存在すると主張している。Li,Yafei(1995)によると、TH では、前項述語の動詞の意味に agent と patient という二つの意味役割が結びついている。agent は、patient より際立っている(prominent)ので、文の主語に写像し、patient が目的語に写像する。一方、動補構造全体には、新たに CH を設定している。CH は、causer と affectee という二つの使役役割から構成され、二つの使役役割は、非対称関係（asymmetric relation）にあり、前者は、後者より際立つので、主語に写像し、後者は目的語に写像するという。さらに、この二つの「Hierarchy」の相互作用による使役役割の指定について、Li,Yafei(1995)は、次のような文に見られる多義性を取り上げて分析している。

---

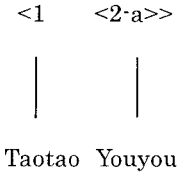
[1]「Themantic Hierarchy」については、Li,Yafei(1995)は次のように述べている。"It is well known that, if a verb has more than one theta-role, their assignment is not random; the agent theta-role is always assigned to the subject and the theme theta-role to the object. This predictability has been expressed in terms of the thematic hierarchy: given a verb in a sentence, the thematic prominences of its theta-roles, determined by their semantic content, must align with the structural prominences of its syntactic arguments" (Li,Yafei1995:484).

1) Taotao zhui-lei-le Youyou le.(淘淘追累了悠悠了)

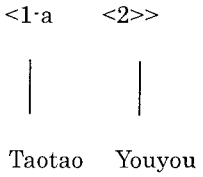
Taotao chase-tired-PERF Youyou LE (Li,Yafei1995:262)

Li,Yafei(1995)によると、1)における「zhui-lei／追累(追いかけて疲れる)」の前項述語の「追(追いかける)」は、項を二つもつ他動詞なので、動作主と被動者という二つの役割をもつ。その TH が<1 <2>>というふうに表現されている。そして、結果述語の「累(疲れる)」は、非対格自動詞であるため、意味役割を一つだけもち、<a>と表現される。結果述語の意味役割<a>が前項述語の役割<1 <2>>のどちらか一つと一致する場合に、動補構造の CH の指定(Assignment)は、理論的な可能性として下記の四通り考えられる。

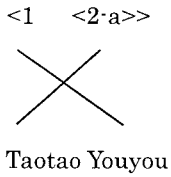
a. T.chased Y. and Y got tired.



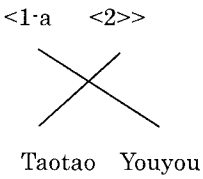
b. T. chased Y. and T got tired.



c. *Y. chased T. and T got tired.



d. Y. chased T. and Y got tired.



(Li,Yafei1995:265)

Li,Yafei(1995)によると、a の<1 <2-a>>というのは、結果述語の「累(疲れる)」の役割<a(Youyou)>と前項述語の「追いかける」の内項<2(Youyou)>とが一致する場合である。<1(Taotao)>が主語に、<2-a(Youyou)>が目的語にそれぞれ指定されるということを示している。文の意味は、下記の 2)が示すように、Taotao が Youyou を追いかけることで、Youyou を疲れた状態にさせたというものであり、Taotao が Youyou の状態変

化に直接責任がある。また、d の<1-a <2>>というのは、結果述語の役割<a(Youyou)>と前項述語の外項<1(Youyou)>とが一致する場合である。<2(Taotao)>が主語に、<1-a(Youyou)>が目的語にそれぞれ指定されるということを示している。文の意味は、下記の 5)が示すように、Youyou が Taotao を追いかけるが、Taotao が特定な行為（例えば、Youyou に捕まらないようにジグザグに走るなど)を行うことで、追いかける側の Youyou を疲れた状態にさせたというものであり、Taotao が Youyou の状態変化に直接責任があるということである。このように見ると、a と d のどちらでも、Taotao が Youyou を疲れた状態にさせるという点で共通している。それに対して、b は、3)が示すように、Taotao が Youyou を追いかけることで、Taotao が疲れた状態になったという意味で、Youyou の状態変化が取り上げられていない。そして、c という読みは、1)からは読み取れず、存在しないのであるという。

2) Taotao chased Youyou and as a result Youyou got tired.

3) Taotao chased Youyou and as a result Taotao got tired.

4) *Youyou chased Taotao and as a result Taotao got tired.

5) Youyou chased Taotao and as a result Youyou got tired. (Li,Yafei1995:265)

上述の文 1)に見られる多義性に基づいて、Li,Yafei(1995)は、a と d の読みの場合に、Taotao と Youyou がそれぞれ causer(使役主)と affectee(被使役主)という CH の役割の指定を受ける主張する[2]。causer と affectee という使役役割は、前項述語に結びつく意味役割(Theta role)の agent と patient とは異なる。それについて、Li,Yafei(1995)は以下の三つの理由を挙げている。理由の一つ目は、使役役割として指定される項は、すでに何らかの役割を担っている点である。例えば、主語の Taotao は、a の読みでは、前項述語の

[2] Li,Yafei(1995)では、本稿で使役主(causer)と呼ばれる項を cause と示しているが、統一を図るために、使役主を causer と表記する。

意味レベルで agent 役割として、d の読みの場合は、patient 役割として指定されているのであるが、いずれも、causer という使役役割に指定されることがある。二つ目は、使役役割が前項述語(V_{caus})や結果述語(V_{res})の項構造の一部分ではない点である。d の読みでは、Taotao が causer として捉えられるが、動詞「追(追いかける)」の意味では、patient として捉えられるのであって、使役役割がまったく指定されていないのである。三つ目の理由としては、使役主と被使役主は、動詞の特定の項に一貫しては結びついていないということである。例えば、a の読みにおいて、「追(追いかける)」の agent 役割を担う Taotao は、cause となるが、patient の Youyou は、affectee となっている。対して、dの読みでは、それと逆であり、patient が causer となっており、agent が affectee となっている。このようにみると、causer と affectee は、動詞のレベルに属する意味役割(Theta role)とは異なる言語的実体(Linguistic entities)であり、動補構造全体の性質であり、特定の動詞(前項述語または結果述語)から生じえないものである(Li,Yafei1995:266)。これは、本稿の立場と基本的に同じであると思われる。即ち、動補構造に結びつく項構造は、その構成要素としての前項述語や結果述語の意味構造から独立したものとして捉えなければならないのである。以上の理由を踏まえて、Li,Yafei(1995)は、TH と CH の相互作用による使役役割の指定条件について具体的に次のように述べている。

1 The argument in the subject position receives the c-role Causer from a resultative compound only if it does not receive a theta role from $V_{res.}$

2 The argument in the object position receives the c-role Affectee from a resulative compound if it receives a theta role at least from $V_{res.}$ (Li,Yafei1995:267-268)

3 Theta roles can be assigned contrary to the thematic hierarchy if the arguments receiving them are assigned c-role in ways compatible with the causative hierarchy.

(Li,Yafei1995:269)

上記の使役役割の指定条件は、1)に関わるそれぞれの読み方の成立や不成立をうまく解釈することがで

きるようである。まず、c の読みを考えてみよう。Taotao が結果述語の「累(疲れる)」から役割を受けているから、条件 1 によって、Taotao が causer(使役主)の使役役割を受けることができない。一方、Youyou が結果述語から役割を受けていないために、条件 2 によると、affectee(被使役主)の使役役割を受けることができない。従って、CH によって統語的な位置(主語と目的語)の指定を受けることができない。一方、追いかける側の Youyou が主語として実現され、追いかけられる側の Taotao が目的語として実現されるべきであるが、統語の配列からみると、TH も違反されていることになる。このように、1)の c の読みは、TH と CH を同時に違反することになるために、成り立たないのである。そして、1)の d の読みは、patient の Taotao が結果述語の「累(疲れる)」から役割を受けていないから、条件 1 によって、Taotao が causer(使役主)の使役役割を受けることができ、主語として実現することができる。一方、Youyou が結果述語から役割を受けているために、条件 2 によると、affectee(被使役主)の使役役割を受けることができ、目的語となることができる。1)の d 文は、TH に違反しているが、条件 3 によると、CH が TH より優先されるので、使役文として成り立つのである。そして、1)の a 文については、CH と TH のいずれも守られているために、使役文として成立する。最後に、b の読みでは、主語の Taotao が結果述語から役割を与えられているから、条件 1 によって、使役主の役割を指定されない。また、目的語の Youyou が結果述語から役割を受け取らないので、条件 2 によれば、被使役主として指定されない。しかし、統語的な配列からみると、追いかける側の Tatao(agent)が主語として実現され、追いかけられる側の Youyou が目的語として現れているために、前項述語の TH に合致することになり、(自動詞)文としては成立することになる。この説明から見ると、条件 3 は、CH が TH より優先されるが、CH の指定条件を満たさなくても、TH の指定条件を満たす場合は、文が成立するということが考えられる。

2. Li,Yafei(1995)の問題点と本稿の提案

しかしながら、上記の三つの条件はいくつかの問題がある。ここでは、各条件について吟味してみよう。最初に条件 1 と 2 について検討する。まず、次の例を見てみよう。

6) *教练　跑　累　了　李四。

監督　走る　疲れる　PERF　李さん

7) *艰苦的工作　病　倒　了　李四。

大変な仕事　病む　倒れる　PERF　李さん

8) *?无休止的排练　唱　烦　了　李四。

きりのないリハーサル　歌う　飽きる　PERF 李さん

上記の 6)、7)、8)では、主語が結果述語から役割を受け取っておらず、目的語が結果述語から役割を受け取っているので、使役役割の指定条件 1 と 2 を満たし、使役文として成立するはずである。ところが、いずれも非文法的である。Li,Yafei(1995)は、6)、7)、8)のような文が成立しない理由を、すべての項に一つ意味役割が指定されなければならないという＜Theta Criterion＞に違反しているからであるとしている。例えば、6)では、主語の「教练(監督)」は、前項述語の「跑(走る)」からなんら役割を受け取っていない。同じことは、7)と8)についてもいえる。即ち、「艰苦的工作(つらい仕事)」は、「病(病気になる)」とは直接な意味関係がない。「无休止的排练(きりのないリハーサル)」も「唱(歌う)」の役割ではないという。しかし、この説明に問題がある。というのは、例えば、次の 9)、10)は同じく＜Theta Criterion＞に違反しているにも関わらず、適切な文なのである。

9) 那场饥荒　饿　死　了　很多人。

あの飢饉　餓える　死ぬ　PERF　多くの人々

あの飢饉は、多くの人々を餓死させた。

10) 滔滔的故事　笑　死　我　了。

滔滔の笑い話　笑う　死ぬ　私　PERF

私は滔滔の笑い話で死ぬほど笑った。

これらの文では、主語の「那场饥荒(あの飢饉)」と「滔滔的故事(滔滔の笑い話)」は、いずれも前項述語の「饿(餓える)」や「笑(笑う)」から直接に役割を与えられていないが、文の主語として実現されているのである。これは明らかに＜Theta Criterion＞に違反している。9)に関して、「那场饥荒(あの飢饉)」は、前項述語の「饿(餓える)」から直接的な役割を与えられてはいないが、間接的な「時間の意味役割(Temporal Theta role)」を与えていると Li,Yafei(1995)は主張している(Li,Yafei1995:268)。「那场饥荒(あの飢饉)」を前項述語の「間接的な意味役割」とする考えには、本稿は基本的に賛成である。ただし、「那场饥荒(あの飢饉)」は、「時間的な意味役割」より、「原因役割」として扱うほうが適切であると思われる。

また、10)については、Li,Yafei(1995)は、「笑(笑う)」には、11)が示すように、使役動詞としての用法が存在するから、11)が示すように、「滔滔的故事(滔滔の笑い話)」は、前項述語の「笑(笑う)」が使役動詞として使役主(causer)という役割を与えられているのであると説明している。

11) Taotao de gu'shi zui xiao ren. (滔滔的故事-最-笑-人)

Taotao 's story most laugh people

Taotao's story made people laugh most. (= was the funniest) (Li,Yafei1995:263)

しかし、「笑(笑う)」は使役動詞として主語に使役主の役割を付与するという扱い方には問題がある。最初に挙げられる問題点は、「笑(笑う)」は、12)からわかるように、「我(私)」のような具体名詞が目的語となる場合は使役化ができない。言い換えれば、使役動詞として使用される場合はかなり限られており、生産性が極めて低い。むしろ上記の Li,Yafei(1995)で挙げられた「笑人(人を笑わせる)」は、「おかしい」や「面白い」といった意味を表す慣用的な用法として考えたほうが適切である。

12) *淘淘的故事　笑　了　我。

淘淘の話　笑う　PERF　私

それから、1)の「追累(追いかけて疲れる)」や 8)の「唱烦(歌い飽きる)」における結果述語の「累(疲れる)」と「烦(飽きる)」も、下記の 13)と 14)が示すように、単独で他動詞文の述語となったときに同様に使役の用法が見られる。Li,Yafei(1995)は、これらの結果述語について結果構文において非対格自動詞として機能すると扱い、使役動詞として扱えない理由についてはなんら言及していない。しかし、「笑(笑う)」のような前項述語を使役動詞として扱うとすると、「累(疲れる)」、「烦(飽きる)」のような結果述語も使役動詞として扱うことができない根拠はどこにもない。

13) 繁重的工作　很　累　人。

大変な仕事　とても　疲れる　人

大変な仕事は人を疲れさせる。

14) 那首歌　最　烦　人。

あの歌　最も　飽きる　人

あの歌は最も人をうんざりさせる。

ところが、もし結果述語も結果構文において使役動詞として考えれば、条件 1 に直接に違反することになる。つまり、Li,Yafei(1995)の条件 1 によると、使役主の役割(c-role)として指定されうるのは、結果述語から意味役割を受けないものである。仮に 1)の a、d の読みの場合、結果述語の「累(疲れる)」が使役動詞として主語の Taotao に使役主の役割を付与しうると仮定すると、条件 1 と矛盾することになってしまう。同じことは、8)の「唱烦(歌い飽きる)」についてもいえる。従って、10)における前項述語の「笑う」は、使役動詞として扱わな

いほうが妥当であるように思われる。と同時に、「滔滔的故事(滔滔の笑い話)」は、使役動詞から与えられた使役主の役割ではなく、前項述語の「間接的な原因役割」と考えなければならない。つまり、「滔滔的故事(滔滔の笑い話)」は、9)と同様に、「由于滔滔的故事而发笑(滔滔の話した笑い話で笑い出す)」のように、原因を示す格標示の「由于」によってマークされえるので、もともと前項述語の「笑(笑う)」に結びつく原因役割として考えるのである。

ここまでの議論を整理すると、主語の位置にある項が動補構造から使役主の役割を与えられる条件というのは、結果述語から意味役割を与えられていないだけではなくて、前項述語の agent や patient のような直接意味役割または間接意味役割として捉えられる参与者でなければならないというふうに修正を加えなくてはならないように思われる。しかしながら、潘家煊(2000)は結果述語から何らかの意味役割を与えられている場合であっても、結果構文の主語が使役主役割を受けることができるケースがあると指摘している。その例を見てみよう。

15) 我　摔　断　了　一条腿。　(潘家煊 2004a)

私　転ぶ　折れる PERF 片足

私は転んで片足を折ってしまった。

16) 我　哭　瞎　了　一只眼睛。　(同上)

私　泣く　失明する PERF 片目

私は泣きすぎて片方の目を失明させてしまった。

17) 我　断　了　一条腿。

私　折れる　PERF 片足

私は片足が折れた。

18) 我　瞎　了　一只眼睛。

私　失明する PERF 片目

私は片目が失明した。

瀋家煊(2004)によると、15)と 16)では、主語がすべて使役主として捉えられるが、しかし、17)と 18)が示すように、結果述語による文の主語と目的語は、結果構文と一致する場合がある。言い換えれば、15)と 16)の主語も、結果述語と何らかの意味関係があり、ある意味役割を与えられている可能性がある。これは明らかに条件 1 に違反する。従って、厳密に言えば、条件 1 に関しては、文の主語で使役主の役割を付与されうるのは、前項述語から何らかの役割を与えられると同時に、結果述語によって表現される変化を被る参与者であってはならないというふうに考えるべきである。それと同時に、条件 2 についても、被使役主の役割を与えられるのは、結果述語によって表される変化を蒙る参与者のみとしなければならないということになる。

最後に、条件 3 にいて検討してみよう。1)の多義性をよく観察してみるとわかるように、論理的に考えられる四つの読みの成立不成立は、基本的に CH によって決められるもので、TH はほとんど機能していないように思われる。Li,Yafei(1995)によると、a の読みの成立は、CH と TH の両方を満足するからである。d の読みの成立は、TH に違反してはいるが、CH に合致するもので使役文として捉えられる場合である。c の読みの不成立の理由は、両方の hierarchy に違反しているからである。b の読みの成立は、CH に違反するが、TH を満足するからである。これらの説明から窺われるように、TH が文の成立を決定するのは、実際のところ、b の読みの場合のみである。しかし、b の読みが本当に成立するか否かについては、非常に疑わしい。というのは、b の読みとまったく同じ意味構造を備えると考えられるのであっても成立しないというような反例が数多く見つかるからである。陆俭明&馬真(1996);石毓智(2006)が指摘するように、結果述語が前項述語の動作主の状態変化を叙述するときに、前項述語の被動者が動補構造の目的語にならないという一般規則がある(石毓智 2006:25)[3]。任鷹(2000)も基本的に同じ観点を示している。次にその例を見てみよう。

---

[3] 陆俭明&马真(1996)は、次のような二つの場合が動補構造の目的語をとることができないと指摘している。1 つは「*他吃胖了肉」のように結果述語が主語を叙述する場合、もう一つは、「*他吃晚了饭」のように、結果述

19) a. 烤鸭　　吃　　胖　　了　　他。　　（石毓智 2006）

焼いたアヒル 食べる　太る　PERF 彼

(彼がアヒルの丸焼きを食べ過ぎて)アヒルの丸焼きが彼を太らせた。

b.*他　　吃　　胖　　了　　烤鸭。

彼女　食べる　太る　PERF 焼いたアヒル

20) a. 小说　　看　　哭　　了　　妈妈。　　（任鷹 2000）

小説　　読む　泣く　PERF 母

小説を読んで小説が母を泣かせてしまった。

b.*妈妈　　看　　哭　　了　　小说。

母　　読む　泣く　PERF 小説

21) a.故事　　听　　乐　　了　　孩子。　　（任鷹 2000）

笑い話　聞く　笑う　PERF 子供

笑い話を聞いて子供が笑った。

b.*孩子　　听　　乐　　了　　故事。

子供　　聞く　笑う　PERF 笑い話

22) a.衣服　　洗　　累　　了　　姐姐。　　（任鷹 2000）

服　　洗う　疲れる　PERF 姉

洗濯が姉を疲れさせた／姉が洗濯で疲れた。

b.*姐姐　　洗　　累　　了　　衣服。

語が動作の状況を描写する場合は、目的語を取ることができないという。

姉　　洗う　疲れる　PERF 服

上記の 19)～22)における a 文では、目的語は結果述語が表す状態変化を経験する参与者で、被使役主の役割を与えられている。主語となるのは、前項述語の patient であるが、結果述語と意味的な関係がないために、使役主(causer)の役割を与えられている。全体は使役文として成立している。これは、つまり、1)の d の読みと同じ構造である。しかし、19)～22)の b 文では、主語が結果述語の表す状態変化を経験する参与者であり、使役主の役割を与えられない。目的語は、結果述語と意味的な関係をもたないので、被使役主の役割も与えられない。これは CH に違反する。一方、b 文の前項述語の agent がすべて一律に主語として、patient は目的語として統語実現されているので、TH を満足することになる。つまり、1)の b と同じ意味構造である。Li,Yafei(1995)の条件 3 では、1)の b と同様に、19)～22)の b 文もすべて成立するはずである。ところが、いずれも非文法的な文である。上掲の事実を考えると、動詞のレベルの TH は、文法関係(主語と目的語)の指定においては、実際のところ、機能していないということになる。従って、条件 3 は実のところ不必要なものとなる。しかし一方で、1)の b の読みと同様な意味構造を備え、文法的にも適切と思われる結果構文も少数ながらも確かに存在することも否めない。例えば、次のような例が容認される。

23) 老王　又　喝　醉　酒　了。　(石毓智 2006:25)

王さん　また　飲む　酔う　お酒　PERF

王さんがまたお酒を飲んで酔ってしまった。

24) 我　已经　吃　饱　饭　了。　(石毓智 2006:25)

私　すでに　食べる　満腹するご飯　PERF

わたしは食事してもうお腹が一杯になった。

上記の 23)と 24)は、Li,Yafei(1995)の用例 1)の b の読みと同様な構造であると考えられる。つまり、CH に

違反しているのにもかかわらず、依然として成立しているのは、TH を満足しているためであるかように見える。しかしそれは単なる錯覚である。石毓智(2003,2006)によると、このような文は慣用性が高く、その使用条件に厳しい制限がある[4]。例えば、「喝醉(飲んで酔っ払う)」、「吃饱(食べて一杯になる」の目的語は、それぞれ「饭(ご飯)」や「酒(お酒)」だけに限られる。さらに、「饭(ご飯)」、「酒(お酒)」は、抽象的なもの概念を表す総称名詞でなければならない。次の例が示すように、固有名詞が用いられたり、あるいは目的語に数量詞が付いたりして具体化されると、文が不適切になる。次の例を見よう。

25) *我　已经　吃　饱　包子／苹果　了。

私　すでに　食べる　満腹するパオズ／リンゴ　PERF

26) *老王　又　喝　醉　五粮液／一瓶酒　了。

王さん　また　飲む　酔う　お酒の銘柄／一本のお酒　PERF

25)は、「吃饱(食べて一杯になる)」の目的語の「饭(ご飯)」は慣用的であるために、「包子(パオズ)」や「苹果(リンゴ)」などのほかの目的語に置き換えられないことを示している。26)は、目的語が抽象的な総称名詞に限られるから、「酒」を、お酒の銘柄を表す「五粮液」という固有名詞や数量詞がついた「一瓶酒(一本のお酒)」に置き換えられないことを示しているものである。また、もう一つ証拠として挙げられるのは、23)と 24)における前項述語と結果述語との結びつきが固定していることである。次の例を見てみよう。

27) *老王　又　喝　晕　酒　了。

---

[4] 石毓智(2003)は次のように述べている。“"吃+饱+饭整个短语都惯用语化了，他们中的任何一个成分都不能自由为其他词语替换，也就是说这种组织尚不是句法结构”（石毓智 2003:109)／「吃+饱+饭」というフレーズ全体が慣用句化されており、そのうちのどの成分も自由にほかの語に取り替えることができない。言い換えれば、それは統語レベルの構造ではないのである(筆者訳)。

王さん また　飲む　眩暈がする　お酒　PERF

王さんがまたお酒を飲んで眩暈がした。

28) ??我　已经　吃　够　饭　了。

私　すでに　食べる 足りる　ご飯　PERF

私がご飯を食べて満足した。

27)が示すように、「醉(酔う)」を「晕(眩暈がする)」に置き換えると、「酒(お酒)」が目的語として構文に現れることはできなくなる。また、28)から分かるように、「饱(お腹が一杯になる)」を「够(足りる)」に置き換えると、文の座りがかなり悪くなる。このように考えると、23)と 24)のような文は、生産性が低く、イディアム化された慣用度の高い表現として扱わなければならず、使役事象を表現する結果構文の下位タイプとするのはもはや適切ではないのである。

3. まとめ

本稿では、Li,Yafei(1995)で提案されたTHとCHの相互作用による使役役割の指定条件について詳細に点検した上、関連する言語事実を十分に踏まえながら、条件1と条件2については、若干の修正を加え、条件 3 については実際には不必要であると結論づけた。さらに、本稿は使役役割の指定条件について次の 2 点を主張した。1. 文の主語で使役主の役割を付与されうるのは、前項述語から何らかの役割を与えられると同時に、結果述語によって表現される変化を被る参与者であってはならない。2. 被使役主の役割を与えられるのは、結果述語によって表される状態変化を蒙る参与者のみとしなければならない。

参考文献

Grimshaw.1990. *Argument Structure.* The MIT Press, USA.

Li,Yafei.1995. “The thematic hierarchy and causativity”. *Natural Language and Linguistic Theories* 13.

馬真＆陆俭明.1996.「形容词作结果补语情况考察」,『汉语学习』.

任 鷹.2000.『现代汉语非受事宾语句的研究』,社会科学文献出版社.

瀋家煊. 2000.「再谈“有界”与“无界”」『语言学论从』第30辑.(『认知与汉语语法研究』に再収録 商务印书馆)

瀋家煊. 2004.「动结式“追累”的语法和语义」『语言科学』,第3卷第6期.(『认知与汉语语法研究』に再収録,商务印书馆)

石毓智.2003.『现代汉语语法系统的建立—动补结构的产生以其影响』,Stanford大学博士学位論文中国語版,北京语言大学出版社.

石毓智.2006. 『语法的概念基础』外教社认知语言学丛书,上海外语教育出版社.

（よう　めい・関西学院大学言語教育研究センター）

The criticism and proposal about assignment condition of causative role: an re-examination of Li,Yafei(1995)

Ming, Yang

Abstract

Through the detailed analysis based on the related data, this article made an amendment about the assignment condition-1 and condition-2, and argued the condition-3 is actually unnecessary, after my detailed investigation about the assignment condition of resultative compounds proposed by Li,Yafei(1995). Moreover, I further claimed the following two points about the assignment conditions: 1). As the subject of resultative clause, which can be assigned with causer role is the participant assigned with some semantic role by V1, and which also must not be the semantic role undergoing the change of state designated by the resultative predicate (V2). 2). Which can be assigned with causee role is only the participant undergoing the change of state denoted by the resultative predicate (V2).